



みどりの森くろつち学園小郡市立立石中学校 令和8年9月29日

立石中学校だより 校長 野中文明 第9号

【学教育目標】郷土を愛し、自分で考え、自ら行動する子どもの育成

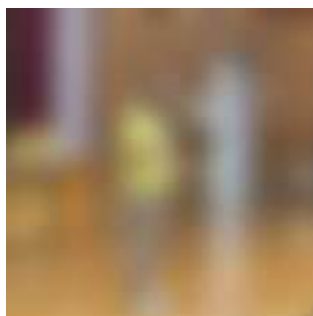
【重点目標】自分の考えや意見を分かりやすく伝える 【合言葉】思ったことを伝え合う教室に



教育条件整備全体学習会へ多数のご参加をいただき、誠にありがとうございました。

「こんなにも多くの方々にご参加いただけるのか？」と皆様の熱量に感激しました。

9月18日（金）に立石小学校の体育館において、来年度に向けた教育条件整備全体学習会及び各学団ごとの署名活動の割り振りを行っていただきました。私は、今年度初めて参加させていただいたのですが、参加者の多さに驚きました。そして、学校や教育に対する期待や責任の大きさを感じるとともに、お子様に対する思いの大きさでもあると思い、保護者の皆様や地域の皆様の学習会に臨む姿を誇りに思いました。大変ご多用の中、署名活動に回っていただき、ご足労をおかけいたしますが、何卒よろしく願います。



一人ひとりが自分の中で大切にしているもの（＝自分の価値観）と向き合いました。

鍵は、「自分自身がどんな人で在りたいか？」ということです。

9月14日（月）～15日（火）の間に

1年生は平和学習でフィールドワーク、2年生は職場体験、3年生は高校説明会を行いました。3学年とも別々の活動を行なっていますが、私は3学年とも自分の中で何を大切に生きてきたのか？これから、何を大切に生きていくのか？を考える「自分自身との対話」という共通の学習だったと思っています。例えば、1年生でいえば、「戦争はいけないと思います」ということはみんな感じていると思います。でも、「なぜいけないのか？」という理由を皆さん一人ひとりが言えるでしょうか？正解が何かではありません。あなた自身の中にある「戦争がいけない！」と思う明確な理由です。それが、あなたの価値観です。2年生でいえば、あなたにとって仕事とは何ですか？これは「どのような仕事をしたいですか？」ではありません。「なんのために働きたいですか？」ということです。これが、人生の中でかなりの時間を占める働くということの中で何を大切にしたいのかというあなたの価値観です。3年生では、あなたはなぜ高校に行くのですか？「高校に行くことがあなたの人生においてどんな意味を持ちますか？」これが、あなたが高校を選択する基準の1つとなる価値観です。

話は変わりますが、以前、担任をしていた時にこういう場面を経験しました。

AさんとBさんというクラスメイトがいました。2人は普段よく一緒にいましたが、その日、2人の間でけんかが起こりました。原因は、AさんがBさんに嫌なことを言ったことに腹を立てたBさんが、Aさんに向かって言い返したためです。

話を聞くと、Aさんは「Bさんの態度が気に入らなかった」と言い、Bさんは「Aが自分に嫌なことを言ったから」と言います。お互いに相手に自分の行動の原因を求めていました。まあ、2人の言い分は分かります……。けど、最近、私はこう思います。「Aさんは、そもそも人の態度が気に入らないときに相手に嫌なことを言う人で在りたいのだろうか？」「Bさんは、嫌なことを言われたときに、言い返す人で在りたいのだろうか？」矢印を外に向けるのではなく、自分自身に向けて、「自分はどのような人でいたいのだろうか？」と考えることがあっていいのではないかと思います。皆さんは「どんな人で在りたいですか？」



本人が成長しようと思っていないのに、成長させることは出来ない！

先週、中間審査が終わりました。「結果はどうでしたか？」と聞きたいところですが、私が皆さんに聞きたいのは結果ではなく、「結果（＝人との比較ではなく、自分が目標としていた結果）が出るような行動が出来ましたか？」ということです。なぜか？目標を達成できるような行動が出来た人、あるいは目標を達成できる自分なりの方法を見出せた人は、何度でも再現できるからです。これを「再現性」と言います。もちろん、目標が高くなれば、行動や方法もブラッシュアップしなければならないと思いますが、これを身につけた人は強いです。でも、これは人それぞれなので、「こういうやり方をしさえすれば大丈夫」という万能な方法はありません。つまり、体験を通して身につけるしかありません。ということは、行動の量（＝トライ・アンド・エラー）とある程度まとまった時間を費やすことが必要です。

私は、審査前に職員室での皆さんと先生方の会話や朝の会や帰りの会での連絡事項を聞いていると、問題集やプリント等の「提出物はやりましたか？」とか「提出物を出しましょう！」というやり取りがいつも気になります。どこが気になっているのか？以下の点です。

- ① 「試験勉強」＝「提出物を出すこと」と思っていないか？
- ② 言われないとしないのか？（試験勉強をやらされてはいないか？）

私も授業を行っていた時、「問題集の○～△ページまでやって提出するように」と言っていました。でも、本当は必要ないとも思っていました。ちなみに、私が考える試験勉強とは

- ① まず、試験範囲全体を「まとめたり」「問題を解いたり」して、自分の中で出来る所と、出来ない所を把握する。
- ② 次に、出来ない所を重点的に取り組んで、出来るようにする。
- ③ 最後に、試験の日に合わせて出来ない所がないように全体を仕上げる。

です。つまり、出来ないことができるようになることが試験勉強です。それなのに、提出物を出すだけで、できるようになるのだろうか？ということが、素朴な疑問です。もちろん、出された課題をつかって、間違えた所を何度も何度もやって出来るようになっていけば話は別ですが……。それと、一番の問題は、皆さんが主体的に取り組んでいるのだろうか？ということです。私の授業でも「課題を出さないとやらない」と思い込んでいたので、提出を求めれば、最低、そこだけでも勉強するのでは？ということで課題を出し、提出を求めてきました。しかし、こちらから課題を出せば出すほど、みなさんの主体性を奪っていたのだと思っています。出されたものさえやればよいという受け身の状態を刷り込んで、強化してしまったり、自分で学ぶ方法を身につけるといふ大事な機会を奪っていたのではと思っています。そもそも、本人が出来るようになりたい、成長したいと思っていないのに、成長することはできません。目の前にある審査をやり過ごすことはできたかもしれませんが……。私自身、「課題を出さないと勉強しないのでは？」でも「課題を出せば主体性や自分で勉強するという習慣や方法が身につかないのでは？」という相反する思いの中でずっと揺れてきました。結局は、「課題を出さない」という勇気を持つことが出来ませんでした……。改めて、みなさんに聞きます。

『みなさんは、どう在りたいですか？』

『みなさんは、「誰のために」「何のために」勉強をしますか？』